

ガーナでそろばんプロジェクト 114 号(2024 年 3 月 30 日)

★★ そろばんの楽しさをもっともっと知ってもらいたい★★

三月初め、首都アクラから北に進み、ボルタ湖の湖面を校庭から見ることに出来る日本人が建てた学校にそろばんの指導に行ってきました。そこから車で一時間ほど行くと、ガーナの I セディ札に描かれたアコソンボダムがあります。このアコソンボダムは貯水量で世界第四位のたいへん大きなダム湖がボルタ湖なのです。アフィフェに行く際に大きな川を渡りますが、この川がボルタ川でこのボルタ川を渡ったところに常時いるのがイムグレーションポリスで、不法侵入者、不法滞在者。武器の密輸等を取り締まっているのです。アフィフェの道のりのみならず、このボルタ湖の湖面が校庭から見える学校はアブイチャ村にあり、ここに行くまでも検問が多くあります。正直言ってしまうと、アフィフェに行く道のりよりもとても険しい道のりの場所に学校はあります。確かにアフィフェに行く道のりもこの十二年もの間に良くなっただけで、とにかく埃舞う赤土の大地を進んで学校に着くのです。

さて、そのアブイチャ村にある学校にそろばんを指導しに行くきっかけとなったのが、この学校を造られた NPO 法人 CLOUDY の副理事を務め、ガーナでマネージャーとして現地に根付いている優美子さんとお茶をした時に「うちの子どもたちは、どんなに日本の計算ドリルをさせてもなかなか計算が出来るようにならない。大人も九九が言えない。」と語ったのです。「それならば、そろばんをやりましょう。そろばんは十進法だから十になったら左に進む。必ず計算が出来るようになります。九九は、日本の算数教育が特別で、九九を暗記させるの日本だけなんですよ。アメリカの有名な大卒出ている人でさえ九九は言えない、と知り合いのそろばん教室の先生が言っていました。」とそろばんの計算力の良さ、そして日本だけが九九を暗記させる話しを熱く熱く語った

のです。そして CLOUDY SCHOOL での第一回の授業を開催しました。この日、中学生の教室に集まったのは下は四年生から上は中学生クラスです。私にアフィフェでそろばんを教えようと思った当時中学生男子が言った「十がわかったよ。十がわかったんだ。」と嬉しそうに言った九から十に進む時を慎重に伝えました。四十九から五十になる時も慎重に伝えました。初日のこの日は、一から百まで数える、百から一まで数える事から始め、珠を読むこと、繰り上がり繰り下がりの無い足し算引き算をやりました。またアフィフェで人気のナンバーカードを使ったシャッフルナンバーも取り入れました。まずは数を楽しんでもらう。数字がわかると学ぶ事が今以上に楽しくなること、そろばんでも計算が出来るようになるとすごく楽しくなることを根気よく、このアブイチャ村でも伝えていきたいと強く思いました。授業終了後に、机の上でそろばんを弾く優美子さんのもとに集まる子どもたち。優美子さんの言う数字をそろばんに置く子ども、正解したら拍手して褒める優美子さんを見て教育に対する熱い想いを持った同志が出来てとてもうれしく思いました。

報告 TOSHIKO



子どもの学びのサポートに心より感謝いたします。

協賛

トモエそろばん様